

Graded Direct Method Teachers' Group

News Bulletin

第 19 号

英語教授法通信

1967年7月24日

編集・発行・英語教授法研究会 事務局 東京都世田谷区豪徳寺 2-27-19 吉沢美穂方 Tel. (429) 5929

GDM のもつ意味論

升 川 潔

I

我々GDMの色々な会合一月例会、講演会、Summer Seminar など一で感じることは、ここに集まってくる人々の中には、色々な動機をもっている人がいるということである。ある人は、put をどう教えたらよいか？ 冠詞はどの教材を使ってどのように導入したらよいか？ という風にある具体的な文型や語の教え方を知りたい。又ある人はその中に流れている原理のようなものを見つけ出そうとする。別の人は 中学校の英語との連関を考えるだろうし、高校の先生もいる。こうした色々な動機をもった人々にGDMが共通に答えられるとしたら、それは初歩から advanced までどのような考え de veloping paths をへて英語を生徒の身になるようにしむけるかということである。

そのためには、まず「タ、ミの上の水練」もしくは「くわずぎらい」の批判ではなく、EP を手にとって 140 ページまで教えて見ることだ。理論的なことは、そのあとで読めばよく内容が判る。

同時にEPを離れて応用的にGDM方式を授業にとりいれるとなると、連続的に長い期間の授業の中では、ついGDMとは一体何が

特徴でどこを伸ばせばよいのかを見失い勝である。そしてついには一番安直な訳読の方がいけないと知りつゝも、楽だからそうすることになりそうだ。ここで一番大切なことは、教師自身が一つの principle をもっていて、いつもそこへ戻ってくるということだ。

II

Richards の意味論は、現代の英語教育の中で、教師のもつべき一つの principle たり得るのか？ この疑問を解決するには、話を1930年代に戻さねばならない。

Bloomfield が S-R theory (つまり Speaker) Stimulus (ここでは発話としよう) が Hearer に何らかの Response (話者の発話に対する答え) を与えた時、言語は始めて意味をもつとする説) を唱えた時、意味論は、人間の発した外面的な音声と音声の関係 — 即ち言語の表面に表われた構造を解明することを仕事とし、人間のもつ mentalism を除外してしまった。Behaviorism による構造言語学アメリカ派は、ここからスタートし、Michigan Method のような形をとって英語教育に入ってきた。

この学派の意味論は言語のもつ構造を、比較的客観的に近づき得る音を体系的に分類す

ることによって明らかにすることに中心をおいた。Lewis Carroll の例によれば

'Twas brillig, and the slithy toves

Did gyre and gimble in the wabe:

でも、“意味”があることになる。brillig slithy, toves, gyre, gimble, wabe は英語でないにも拘らず、文法的働かしをくみとることが出来るからである。

したがってこの学派の人達は、音韻論→形態論→統語論というハシゴをのぼることによって純粹に客観的に言語のもつ構造を明らかにしようとした。

しかしそうして分類しようとした試みも、最初の phoneme の区別からすでに、native speakers の judgment が常に正しいという主観を許したし、連続した音を discrete units に分析することを仮説と考えなかった事に、まちがいがあった。さらに data をどんなに多く集めても、それは推計を作るだけであって人間の経験を全部記録することは出来ない。むしろ人間が今までできなかった発言をきいても判るのは、Richards のいう reference の中に構造をしまっているからで人間はこの言語構造と語イのもつ意味の特徴とを操作しながら、常に新しい“文”を作り出している。したがって人間の頭の中には、基本的構造ともいふべき文の型をもっていて、特にそれが実際に表われる発話の“文”の frequency とは必ずしも一致しない。

P. Roberts の例をかりれば、

Babies cry

I hate to hear babies cry

とは frequency からいうと、後者の方が高いであろうが、それに拘らず、前者の方が基本的と考えられることが、前述のことを裏づける。この辺りに最近の生成文法 (Generative Grammar) の出発点がある。

Chomsky に代表されるこの学派では、実際に表われる言語現象 (performance) は必ずしも言語が表わし得る創造能力 (competence) とは一致しないとしてこの両者を区別する。

表面上の構造 (surface structure) の下にある深層構造 (deep structure) を仮定し、deep → surface へ移行させる操作を transformation と呼ぶ。Deep → surface の移行は必ずしも我々が頭の中で行なう言語操作とは一致しないが、Deep Structure を認めるのは、native speaker の intuition による。この直観力を認めることは、ある mentalism を認めることになり、心の中の現象を排除したいいわゆる descriptive linguistics とは本質的に異なる。

次に transformation という操作を認めることは、少なくとも次の二点で有用である。

a) 例えば、

I expect him to go.

で I が主語で him が目的語の関係と him が主語で to go が叙述であるという関係を

(I expect (he goes))
S O OS

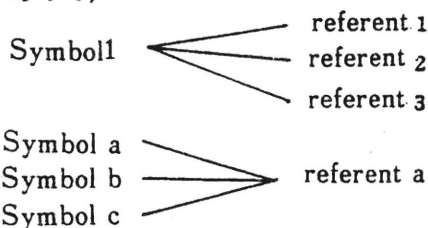
で同時に表わし、その後 transformation で、元の文にすることが出来る。又、能動と受動のような文と文の関係も明らかに出来る。

b) 次に generation という語 ('generate すること' の意と '世代' という意がある) に二つのちがった構造式を与えることによって二つの意味の差をいうことが出来る。従って二つでは概念のキトリに際して、ある概念に含まれる意味を先に考え、それに応じた言語形式があるという考え方に立つ。

III

二つの言語学派に焦点を合わせて考えたが、Richards の意味論とは、どのような関係にあるのか？ Richards の意味論には、意味

のアイマイさに意識的になれという一本の柱
 があって、



の図式で表わされる。ある symbol (言語) が 多くのもののことをさすことがあるし、いろいろな言語表現も、結局は一つのことをいっている場合もあるということであり、従って context に注意せよ、意味は流動的だとする。これは、Generative Grammar のいう semantic ambiguity と似ている。

第二に Richards にとって品詞の区別は重要でなかった。love という語が、文法上、動詞であれ、名詞であれ、意味内容は同じであると考へたから、Basic English を作る時学習上やっかいな動詞を基本語16にへらしてしまった。従って Basic English は名詞を中心とした system である。そしてその背後には、ある concept に対してどの言語形式を用いて意味をキリトルかに対して単純化された方法を示した。GDM のいう

S-V-O-Preposition Phrase
 (e.g. I will put a book on the table)
 がそれである。

第三に Richards と Ogden は明らかに意味の構造を考へて 850 の Basic English を作った。つまり puppy と dog のどちらを残すかに際して、puppy は a young dog といいかえることが出来、young dog の方が、他の語のレベル・働らきを考へて有用であるとした。(Panoptic Eliminator) の中で排除していった) これは generative grammar の意味論部門でやり始めた semantic feature に似ている。

すなわち G.G. では puppy には Age を示す feature と dog を示す feature をつけて old puppy のような nonsense sequence を防ごうとしている。

第四に、Richards の意味論は、英語に特有なそれではなく、意味の universality を考へ、意味作用が、元来各言語に共通部分があるとする。English Thru Pictures だけでなく、French, Spanish, German についても同じ方法によるシリーズがあるのを見ても判るこのことも又 chomsky のいう 'Universals' の概念と似ている。

こうして見てくると、Richards と Chomsky では、意味論の分野でかなりの類似点があり Richards が logical にといっていることを Chomsky は logical + formal と加えたわけである。しかし Generative Grammar の意味論はまだ metaphor とか、虚構性のような文体的解釈までは到達していないし、そこに限界も感じる。

GCM の背後にある意味論は、naive である点をのぞいては、目下 Chomskian grammar によって科学の名の下に解明されつつある感じがする。definitions 用語は異なるにしても、考へ方の底流には、より正確な形で、迫っている。

案外 近い将来に、丁度 descriptive linguistics が Michigan Method に学問的 support を与えたように、Chomsky 派の文法が GDM に科学性を与えてくれるかも知れない。但し実践的教育と学問的發展とは必ずしも一致しないし、教師の方は理論をかみくだいて実践にうつす義務がある。

— 以上 —

(東京女子大短大部講師)

鎌倉グループだより

○3月29日

1. Demonstration "goby" 東山永。鎌倉婦人子供会館，小学校2年生約20名。
2. 吉沢先生の講演。吉沢先生作成のLABOのテープとその基礎となっているGDMとの関係についてのお話でした。

今まで吉沢先生はGDMのクラスは最年少小学校4年生と言っていました，鎌倉のクラスを見て，“その考え方を改めます”ということになりましたから念のため。ただしこのクラス担当の小林久子，関美代子さん二人とも子供がないのに，その扱い方はなかなか上手であることをお忘れなく。

この会は湘南地方のLABO Tutorsの希望も入れ，GDM披露の会となりました。

○その後GDMをより深く知りたい15名の熱心なTutorsのために5,6,7月6回にわたりこの教え方の基礎をしました。(東山担当)
○6月3日の講演会場に鎌倉グループの生徒の作品，ノートが展示され，多くの参加者の参考になりましたことを喜んでます。先生，生徒よりそのお母さん達の感激を想像して下さい。

○7月6日，町田俊昭氏（早稲田大学講師）を招き，維新，明治の英学の話を書き，たいへん参考になり，かつ元気づけられました。
○鎌倉グループ数人で native speaker にいろいろ教わっています。一番つらいのが Sound drill, rusty と lousy をまちがえて恥をかいったり冷汗をかいったり。先生は Mr. & Mrs. Mihal, ミシガン大学の大学院生で日本の美術を研究，その論文を書くため日本に滞在中で，日本の文化，歴史の知識は，我々とてもかなわず，ここでも恥をかき，汗をかきます。

御希望の方はいつでも参加下さい。謝礼は

その都度参加者でワリカン。人数の多いほど負担は軽くなります。(東山記)

言語録

昨年の語研大会で高校の授業実演は，English through English で各方面から好評だったようだ。生徒もなかなか活発そうに，教科書のレッスン summary を口でいったり，われわれでもオタオタするようなむづかしい日本語をサッと英語でいったりカッコウのいいところをみせた。

しかし気になったことは，これらのカッコいいことが，すでに宿題のかたちでうちで準備してきていることである。すなわち，授業をしてくれた Mr. Sato は宿題（または予習）の答え合わせ的なことをやった。その場で耳にきこえたことに対して，その場でかんがえながら口でこたえる — という instantaneous な反応を訓練しているのではなかった。教科書の文章を，英英字典をつかって，家で解読し，それを要約してノートにかき，教室ではそれを口でいうにすぎない。これでは，あくまで書きことばが，ことばの本質のようにあつかわれている。

こういう，たいへんな宿題を消化させなくてはならないため，教師はかなり権威主義的であるようにも感じた。むかしのエリート教育はこのようだったのではなかろうか，とタイム・マシンのような気がした。

もろもろのコミュニケーションの方法のうちで，ことばがどういう位置をしめるか，その正当な認識が必要だとおもった。

公開講演会「中級英語におけるAVの役割」
6月3日1:30-4:30 P.M. 杉並法人会館
で約140人をあつめ盛会であった。講師は金田正也、片桐ユズル、吉沢美穂、デモンストレーションは日大2高英語クラブと升川潔のみなさん。会場には鎌倉グループの生徒の作品もならべられ注目された。なお金田正也さんは会のために講演料を寄付され、事務局を感激させた。

ジョイント・セミナーは7月15-16日熱海のシオン荘で、本部、関西支部、鎌倉グループから合計13名が参加し、よくしゃべった。くわしくは ページ。

関西支部の大阪YMCAのクラスは4月から月水金4時から6時まで、小学5年2クラス6年3クラス、中学1年1クラスとエスカレーションした。見学歓迎、YMCA英語学校の5階の事務所へきてください。なおTel, 大阪441-0892 YMCA。

地方在住の方で関西支部の例会に出席したい方は、関西支部員の名簿に登録してください。神戸市垂水区多聞町火ノ蔵松蔭大学英米文学科研究室内英語教授法研究会関西支部、Tel. 078-76-0001。

鎌倉グループの活動は、ページをごらんください。

そのほかのグループを自分のまわりにつけてください。

阿江美都子さんスイゾウがわるくて入院。はやくよくなってね。

稲垣登子(タカコ)さん、報徳学園から大阪YMCA英語学校へ。

片桐ユズルさん、地番変更。神戸市垂水区上高丸2-1, 16-304 が新番地。『ことばの宇宙』に連さいしていた落語がおもしろかったひとは、もっとほんものの『意味論入門』(思潮社)をよむべきだ、と彼はいつている。

升川潔さん、ストのためやっとこさでICU大学院を卒業。都立杉並高校定時制から東京女子大学短大部講師になった。NHK教育テレビで毎週ハンサムな顔がみられる。テレビカメラは彼の歩きまわる教え方を、うごけなくした。

村木正武さんは9月からフルブライトでテキサス大学へいって言語学の研究をする。

室勝さんは「意味論の3本の柱」という論文を早大法学部の研究報告にかいた。

岡部幸枝さんは4月から大阪YMCA英語学校の専任になった。

高幣(タカヘイ)さんはミシガンからひさしぶりにかえった。

高橋美智さんはイギリスへいった。

矢ヶ崎庄司さんは都立武蔵高校から中野工業(定時制)へうつり、ICUの大学院でAVを研究することになった。

吉沢美穂さんがTECのためにつくったEnglish Work Room(文型練習の本、テープ、絵のセット)はラボ・パーティーで、つかいよいと、大好評。

会費について 英語教授法研究会の会計年度は9月から翌年の8月までとなっています。これはアメリカのまねをしたというよりは、サマー・セミナーで新会員がふえるため、サマー・セミナーでの入会者にとっては7・8月はサービス期間で初年度は14ヶ月ありますが、次年度9月にはらうのをおわすれなく。

リビングストーン 1~10課のテープ(リビング+文型練習、コントロールド・カンバセーションで各課あたり約20分)を松蔭大学LLでつくりました。ねだんは、テープのつかいかたでいろいろになりますが、5本セットで5,000円見当。アメリカ史も Book 2までできています。

<i>English Through Pictures, Books 1 and 2</i>	¥ 220 each
<i>First Workbook of English</i> (大判)	¥ 240
(ポケット判)	¥ 170
<i>First Steps in Reading English</i>	¥ 170
<i>Teachers' Handbook for English Through Pictures</i>	¥ 400
<i>Anglophone Records for English Through Pictures, 1 and 2</i>	¥ 6,000 each
<i>Filmstrips for English Through Pictures, Series 1 and 2</i>	¥ 15,320 each
	(海外注文)

チャールズ・E・タトル商会

神田店 東京都千代田区神保町1-3
TEL. (291) 7072

高島屋店 東京都中央区日本橋高島屋
6階 TEL. (211) 5029

好評

絵を使った文型練習

国際キリスト教大学講師 吉沢美穂著

英語入門期に視聴覚的な教授法が役立つことは論をまたないが、その効果的な用法は十分に研究されているとは言えない。本書の著者はハーバード大学のI・A・リチャーズ博士のもとで言語伝達の理論に基づいた英語教授法を学び、爾来十余年にわたる研究と実践を一冊にまとめた。ここに扱われた文法事項、語法、基本語は三百に及び、教科書の種類、学年に関係なく、ページを開けば絵を使った文型練習が得られる。練習の効果を高めるために初・中・上級別のワークブックを添えた。

中学校、高校、講習会、家庭での学習に最適

A5判函入(テキスト一冊
ワークブック三冊添付)
好評発売中 定価六五〇円

東京都千代田区神田錦町3-26 大修館書店 Tel(291)3961-5